

DNA問題研究会・特別セミナー

「PFASが脅かす食と暮らし」

—暮らしの隅々に入り込む危険な物質の正体—

永遠の汚染物質といわれ、人体や生態系への悪影響が指摘されている PFAS(ピーファス)ですが、フッ素樹脂製造工場や産廃処理場、基地など様々なところを汚染源として、河川や地下水を汚染しています。しかし、汚染源はそれだけではありません。私たちの暮らしの中にも、フッ素樹脂のフライパンや、防水・防汚の衣類、食品包装、カーペット、化粧品、農薬などに含まれ、体内汚染をもたらしています。

また、半導体の製造時に PFAS が使われており、政府は、世界最大の半導体受託製造企業である TSMC 新工場を熊本県に誘致し、さらに国家戦略として世界最先端の半導体を開発・製造・販売するラピダスの北海道の工場を支援し、汚染を拡大させようとしています。

今回は、暮らしの隅々に入り込む危険な物質の正体を明らかにし、PFAS が脅かす食と暮らしを考えていきたいと思います。講師として、40 年あまり東京都職員として環境行政に携わり、全国で廃棄物問題などの環境問題に取り組み、いま半導体問題に取り組んでいる藤原寿和さんに、半導体製造と環境問題と人権問題を語って頂きます。天笠啓祐さんには暮らしの隅々にどこまでPFASが入り込みどこまで危険な物質なのかをお話しいたします。

記

日時 : 2026 年 5 月 28 日(木) 13 時 30 分～16 時 30 分 開場13時

テーマ : PFASが脅かす食と暮らし—暮らしの隅々に入り込む危険な物質の正体—

場所 : 東京ボランティア市民活動センター会議室B

東京都新宿区神楽河岸 1-1 飯田橋セントラルプラザ 10 階

JR総武線・東京メトロ副都心線 飯田橋駅下車すぐ 飯田橋駅西口を出たら右。

駅に寄り添うようにして建つ 20 階建てのビルが「セントラルプラザ」

有楽町線・東西線・南北線・大江戸線の場合「B2b」出口よりセントラルプラザ 1 階に直結

講師 : 藤原寿和(ふじわら としかず)さん。

廃棄物処分場全国ネットワーク、止めよう！ダイオキシン汚染・東日本ネットワーク、有害化学物質削減ネットワーク、化学物質問題市民研究会、ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、日台油症情報センター、千葉県放射性廃棄物問題を考える住民連絡会などで活動。

天笠啓祐さん DNA 問題研究会員

環境問題を専門とするジャーナリスト、『フッ素の社会史』(地平社)の著者

参加費 : 300円(現地参加費) 後日期間限定の逃がし発信あります。

ZOOM 参加無料(ただし質問や意見を述べることはできません)

Zoom の方は事前申込み。下記必要事項明記の上5月26日まで申込みください。

申込み時の必要事項は名前、職業、電話番号、メールアドレス

申込み先 E-mail jreikochan@yahoo.co.jp [またはこちらから](#)

アドレスに返信確認メールお送りします。アドレスは間違えないように

当日の詳細案内: ZOOM 参加申込みされた方には5月26日ごろに ZOOM の UR 等ご案内いたします。

問い合わせ: 携帯番号 090-2669-0413 神野玲子

E-mail jreikochan@yahoo.co.jp

[こちらからもお申込みできます](#)

主催: DNA 問題研究会 (<https://dnamondaiken.wixsite.com/mysite-3>)



以上

